GCMSsolution バージョン 1.21

アップデートプログラム説明書

(株)島津製作所　分析計測事業部

1. はじめに

本アップデートプログラムを実行することにより、GCMSsolution バージョン 1.20 以上から最新のバージョン 1.21 へアップデートすることができます。下記の「3. インストール手順」の手順でアップデートしてください。

＜ご注意＞

本アップデートプログラムは、必ず GCMSsolution バージョン 1.20 以上がインストールされた状態で実施してください（サプリメントバージョン 1.20SU1 も含みます)。バージョン 1.20 未満からはアップデートを実施できません。

2. GCMSsolution バージョン 1.21 の概要

1) 変更点について

GCMSsolution バージョン 1.21 では、下記の点が変更されています。

1. Windows Vista 対応

GCMSsolution バージョン 1.21 から、Windows Vista® Business 32 ビット版 SP1 に対応しました。

* Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商標です。

2. 不具合修正および機能改良

バージョン 1.20SU1 以降に発見された不具合の修正、及びいくつかの機能改良を行っています。バージョン 1.21 で修正、及び改良された項目の詳細は、「5.修正・改良された内容」をご参照ください。

2) GCMSsolution バージョン 1.21　ご使用上の注意

以下の注意をご一読の上、バージョンアップを行ってくださいますようお願い致します。

- GCMSsolution Ver.1.02 およびそれ以前のバージョンで作成したチューニングファイルは、Ver.1.20 以降では使用できません。Ver.1.02 以前からバージョンアップする際は、新たにチューニングファイルを新規作成してチューニングし直してください。
- MS 用ドライバをインストールする際は、あらかじめ GCMSsolution をインストールしておいてください。またインストール時のドライバの指定場所は、GCMS-QP5000/QP5050A 取扱説明書に記載の場所ではなく、C:¥GCMSsolutioin¥Program を指定してください。

- GCMSsolution Ver.1.21 は、Windows 2000, Windows XP Professional, Windows Vista Business のいずれかの OS が搭載された PC でのご使用を推奨します。

3. インストール手順

3.1 インストール

1) GCMS 分析など、Windows 上で起動しているプログラムをすべて終了してください。
2) ハードディスクまたは CD-R 等にコピーされているアップデートプログラムの GCMSsolution フォルダ内の Setup.exe を実行します。
   Windows Vista では、Setup.exe を実行したときに「プログラムを続行するにはあなたの許可が必要です」という [ユーザーアカウント制御] 画面が表示されることがあります。その際は、[続行] を選択してください。
3) 画面の指示に従ってインストール作業を行ってください。
4) 再起動をした後、デスクトップの「GCMS 分析」アイコンをダブルクリックして GCMS 分析画面を起動してください。

3.2 確認

1) GCMS 分析画面で、[ヘルプ]メニューの[バージョン情報]を選択します。バージョン番号が「1.21」であることを確認してください。
2) [ツール]メニューの[プログラムの改ざんチェック]を選択します。「プログラムの改ざんチェック」ダイアログの「実行」ボタンをクリックして、「改ざん無し」と表示されることを確認してください。

ご不明な点がございましたら、弊社「島津分析コールセンター」までお問い合わせください。
[東京(03)3219-1691 または 京都(075)813-1691]

4. Windows Vista 上でご使用になられる際のご注意

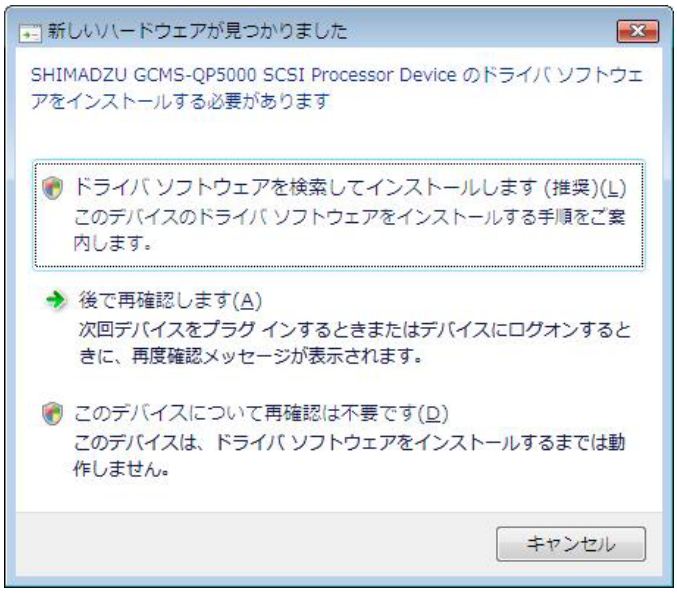
- 分析レポートの PDF 出力機能をお使いいただくためには Adobe 社の Acrobat が別途必要になりますが、Windows Vista でご使用の際は Acrobat の Windows Vista 対応バージョン（Ver.8 以降）をご使用ください。
  PDF 出力の設定方法は、GCMS-QP5000/5050A の取扱説明書「B.1.2　ポストスクリプトドライバのインストール」に記載されています。Windows Vista の場合も同様に操作してください。

- Windows Vista では、標準搭載日本語フォントとして、「メイリオ」が搭載されています。GCMSsolution Ver.1.21 の画面表示およびレポート印刷において「メイリオ」フォントを指定したとき、文字切れ、文字化けなどが発生する場合があります。画面表示・レポート印刷では、「メイリオ」フォントをご使用にならないことを推奨いたします。

・ Windows Vista では、新規に作成したフォルダのセキュリティに関する既定値が厳しくなっていることや、OS のユーザーアカウント制御（UAC）機能の影響により、他の Windows ユーザーが作成したデータファイルやメソッドファイル等を使用できない場合があります。そのため GCMSsolution や関連オプションソフトウェアでは、セキュリティ権限を変更して、インストール先フォルダ以下ではファイルを共有できるようにしています。
もしインストール先のフォルダ（またはそのサブフォルダ）以外の場所に新規にデータフォルダを作成する場合、サブフォルダの作成やファイルの保存などの操作ができなくなったり、他のユーザーがファイルを参照できないことがあります。このようなときは、Windows の機能を使用してフォルダのセキュリティ設定を変更してください。

・ Windows Vista で MS 用ドライバをインストールする際は、以下の手順で操作してください。なお、MS 用ドライバのインストールは、PC に GCMSsolution をインストールした後に行ってください。

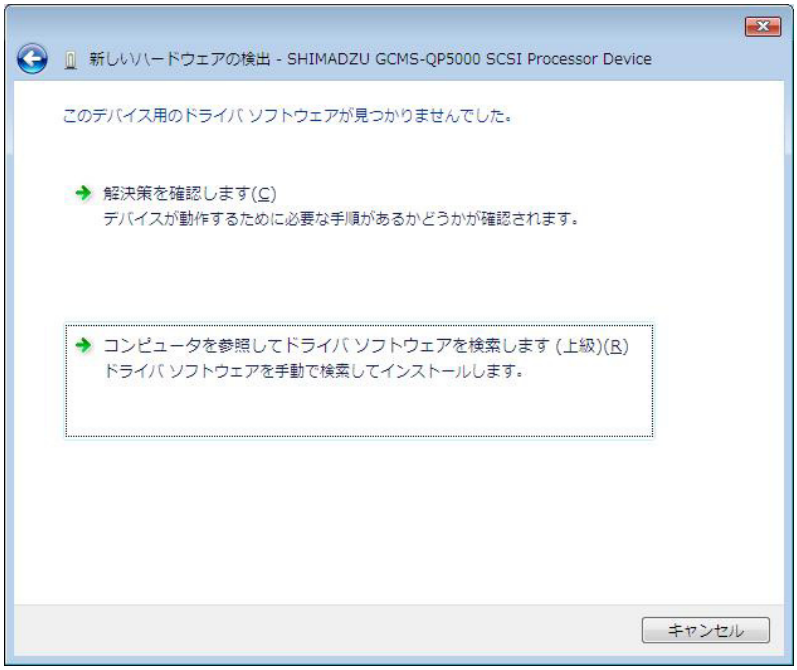
1. Windowsを起動したまま、MSをPC/IFボードに接続します。自動的に「新しいハードウェアが見つかりました」ウィンドウが開きます。
「ドライバソフトウェアを検索してインストールします（推奨）」をクリックします。
ユーザーアカウント制御のウィンドウが表示されますので、「続行」ボタンをクリックしてください。



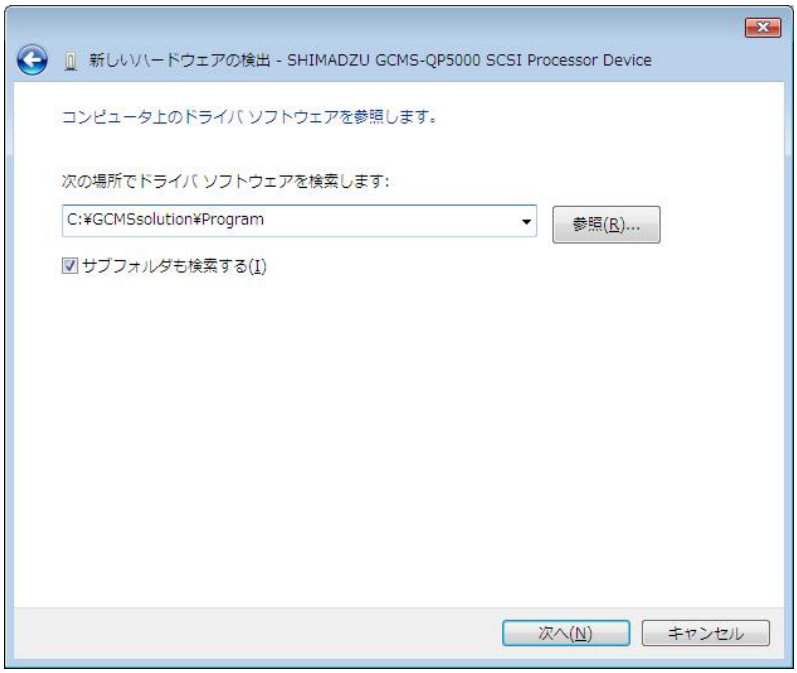
2. 「SHIMADZU GCMS-QP5000 SCSI Processor Deviceのドライバソフトウェアをオンラインで検索しますか？」ウィンドウが表示された場合、「オンラインで検索しません」をクリックします。この画面が表示されないときは、手順3 に進みます。

3. 「SHIMADZU GCMS-QP5000 SCSI Processor Deviceに付属のディスクを挿入してください」ウィンドウが表示されます。
「ディスクはありません。他の方法を試します」をクリックします。

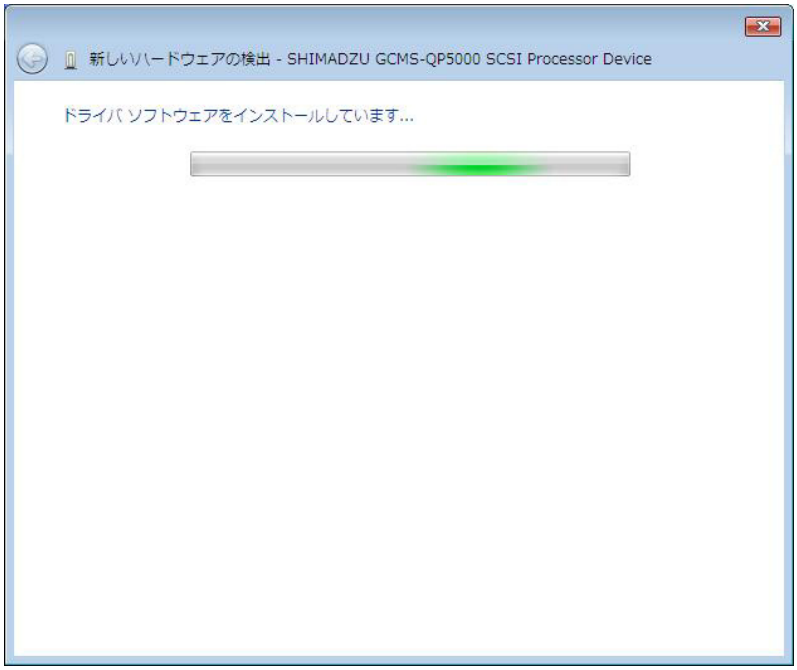
4. 「このデバイス用のドライバソフトウェアが見つかりませんでした。」ウィンドウが表示されます。「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します（上級）」をクリックします。



5. 「コンピュータ上のドライバソフトウェアを参照します。」ウィンドウが表示されます。「参照」ボタンを押して、C:¥GCMSsolution¥Program（C: はGCMSsolution がインストールされているドライブです）を指定します。「次へ」ボタンをクリックします。

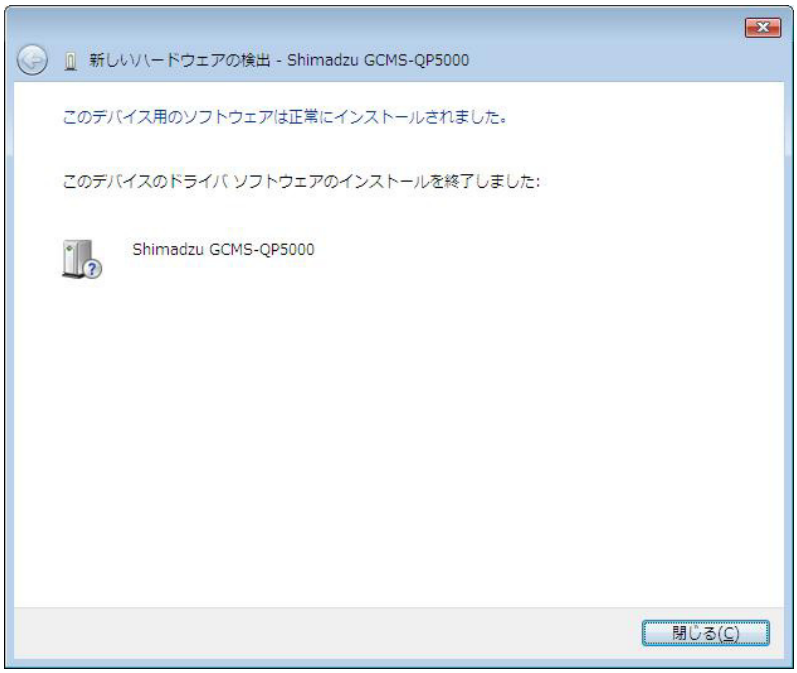


6. デバイスドライバのインストールが開始されます。



途中、「このデバイスソフトウェアをインストールしますか？」というダイアログが表示された場合は、「インストール」をクリックしてください。

7. 「このデバイス用のソフトウェアは正常にインストールされました。」ウィンドウに替わります。「閉じる」ボタンをクリックします。



5. 修正・改良された内容

GCMSsolution Ver.1.21 では、Ver.1.20 SU1 から以下の点が改良されています。

分類	改良された内容
全般	従来の推奨 OS（Windows XP、2000）に加え、Windows Vista 上でも正常に動作するようになりました。
データ採取	TurboMatrixHS の ROM バージョン 2.x を制御できるようになりました。

GCMSsolution Ver.1.21 では、Ver.1.20 SU1 から以下の問題が修正されています。

分類	修正された内容
データ採取	不適切な文字（「:」「/」「¥」）を含んだデータファイル名を指定することができ、そのため測定してもデータファイルが作成されない場合がありました。 ⇒不適切な文字を含んだファイル名を指定できないようにしました。
	測定が正常に行われず、データファイルを読み込んだときに「クロマトデータ/スペクトルデータが壊れています。」と表示されることがありました。
	メソッド編集権限の無いユーザーがログインしてメソッドファイルを開いたとき、HS のパラメータが正しく読み込まれない場合がありました。
	圧力を psi や kgf/cm2 で表示している時、適切な圧力をメソッドに指定しているにもかかわらず、「0.1 単位で値を設定してください」というエラーメッセージが表示されることがありました。
バッチ処理	バッチ分析の途中で、稀にアプリケーションエラーが発生して異常終了してしまう場合がありました。不具合を修正しました。また、同じくバッチ分析の途中で、稀にエラーも無く分析画面が消えてしまう場合がありました。これらの不具合を修正しました。
	AOC-5000 を使用してバッチ分析を開始したとき、稀にソフトウェアが異常終了するときがありました。
	バッチ分析中に一時的に真空度が悪くなった場合、バッチ分析がその行で中止されることがありました。真空度が改善された場合は、バッチ分析を継続するように修正しました。
データ解析	長時間分析を行ったデータにて MIC を表示すると異常終了する不具合を修正しました。
	データファイルに名前をつけて保存した後、別のデータファイルを読み込もうとした時、レポートフォーマットの保存のメッセージで「はい」を選択すると、プログラムが異常終了しました。本不具合を修正しました。
	定量手動波形処理等によって同定ピークを別のピークに替えても、変更前の TIC ピークにピークコメント（化合物名など）が残ったままになっていました。
	スペクトル処理テーブルからスペクトルをライブラリへ登録するとき、[前回の減算結果をもとに繰り返して減算]機能を用いて作成したスペクトルは正しく登録されませんでした。
	化合物テーブルで濃度が降順に設定された折れ線検量線を用いて定量計算したときに、濃度値が正しく計算されないことがありました。
	CLASS-5000 のメソッドファイルを GCMSsolution のファイルに変換するときに、稀にソフトウェアが異常終了することがありました。
レポート出力	メソッドアイテムをレポート出力したとき、スペクトルフォーマットパラメータの水素補正値や同定パラメータのデフォルトバンド幅、化合物テーブルのバンド幅の値が正しく出力されるよう修正しました。

レポート出力（続き）	印刷をプリンタと PDF の両方に出力するとき、プリンタでの印刷物と PDF とで印刷日時が僅かに異なっている場合がありました。 ⇒ 両方とも同じ日時が出力されるよう修正しました。
	Adobe Acrobat バージョン 9 を使用している場合、PDF 出力を実施できませんでした。
検量線	他のプログラムで使用しているメソッドファイルを読み込み専用で開くとき、メッセージダイアログでキャンセルを選択すると、稀にソフトウェアが異常終了することがありました。
	化合物テーブルの濃度に 0 が設定されている場合、検量線を正しく作成できなかったり、重み付け検量線が画面に表示されないことがありました。
	検量線をレポート出力したとき、検量線が最大濃度の検量点までしか描画されていませんでした。
ライブラリ編集	ライブラリ化合物の構造式に WMF 形式のファイルを設定すると、異常終了する場合がありました。
	ライブラリ編集画面でレポートのプレビュー中に×ボタンで画面を閉じると、プログラムが異常終了しました。
定量ブラウザ	バッチファイルを用いて、データファイルとメソッドファイルを読み込んだ時、意図しないフォルダのファイルを読み込むことがありました。また、データファイルが読み込まれないこともありました。不具合を修正しました。
	サマリレポートでプレビューまたは印刷を行ったとき、稀にソフトウェアが異常終了することがありました。